The Japanese School of Johannesburg NEWS Letter
めざせ！南十字星
8
２０２６(令和８)年
月３１日発行
ヨハネスブルグ日本人学校 学校だより

学校教育目標
国際感覚を身につけ、確かな学力と
豊かな人間性を備えた児童生徒の育成
合い言葉：自立・貢献

ＪＳＪ「６０歳の誕生日」を祝って

校長 石山 秀樹

８月３１日は、ヨハネスブルグ日本人学校の創立記念日…「誕生日」です。今年、本校は６０周年を迎えました。私は、これを機に本校の歩みを振り返ろうと、校長室･金庫室･会議室に保管されている古い資料やアルバムを「発掘」しました。そのうちのいくつかの内容を御紹介したいと思います。(一部画像はAIでカラー修正を施しています)

【Greenside 当時の校舎を背景に】

今を遡ること６０年前の１９６６年（昭和４１年）８月１９日、東京都教育委員会の斡旋により派遣された、南河(なんこう) 宏 教諭、南河 悌子 教諭夫妻がヨハネスブルグに赴任しました。

この頃、ヨハネスブルグには３６社の日系企業があり、日本人の社員及び家族は１７０名ほどでした。当時、公立学校への日本人の入学は全く不可能であり、日本人児童は英国系・オランダ系・ユダヤ系等の各私立学校に通っていましたが、それらも思うようには入学できず、特に男子は中･高学年になると入学が難しく、就学そのものに困難を抱えていました。このような状況の背景には、当時の南アフリカ共和国の政策であった「アパルトヘイト（人種隔離政策)」があったことは言うまでもありません。このようなことから、南ア日本人会の主導により日本人学校設立の取組が進められました（現在までのところ、草創期における南ア日本人会と学校の設立については詳しい資料を確認できておりません。今後も引き続き調査を進めてまいります)。

さて、赴任された先生方を中心に準備は急ピッチで進められ、８月３１日、ついに「南ア日本人学校（Japanese Continuation Class of South Africa)」として開校式を挙行、児童･生徒１６名が入学しました。このことを記念して、本校では８月３１日を創立記念日としています。翌日から始まった授業では、児童･生徒を低･中･高学年の３クラスに分け、国語･社会･算数/数学･理科の補習を行いました。このときの校舎は、現在の学校からも近い Greenside にあった一軒家の民家を借り上げたものでした。家の中の 15～20 ㎡ほどの部屋二つを教室とし、「校庭」は普通の庭です。図面には「日本人学校の敷地･建物（教員の住居)」とありますので、先生方もここに住まわれていたようです。住宅街の中の一軒家ですから、騒音などにも気を遣いながらの学校生活であったことでしょう。

【Greenside 校舎　教室での授業】

まさに、２０周年記念誌などで繰り返し言及されるとおり、「寺子屋式教育」がヨハネスブルグ日本人学校の原点だったのです。日本の教材･教具も満足に無く、特別教室も運動場も無く、人種隔離政策が行われている社会の中で、なんとか日本の学校教育を実現していこうという先生方と南ア日本人会等の関係の方々の並々ならぬ熱意を、私は強く感じました。

JSJ News Blog: JSJ NEWS EXPRESS

学校はその２年後、１９６８年（昭和４３年）８月に Saxonwold へと移転します。

【Saxonwold 校舎】

ここも Greenside と同じく住宅街の中の民家を借り上げた校舎でしたが、敷地にはプールを作り、水泳授業も行いました。ところが、１９７０年（昭和４５年）１月、ヨハネスブルグ市議会に日本人が住宅地で学校を営んでいることが問題として取り上げられ、この協議が進められる間、１月から３月まで学校が一時閉鎖されるという事態も起きました。

この時代、日本の経済成長により日本と南アフリカの貿易額は飛躍的に伸び、ヨハネスブルグに駐在する日本人も増加したことに合わせて児童･生徒数は増加していました。手狭になった教育環境の改善のために学校の移転・拡大が急務となり、南ア日本人会・日本総領事館を中心に南ア政府教育庁、公共事業庁との折衝が行われました。このような中から、南ア公共事業庁より、Emmarentia 地域に当時使われていなかったプレハブ校舎６棟を移設する話が出、多くの資金と労力を費やして、宿願であった広い校庭のある学校ができたのです。

【Emmarentia プレハブ校舎】

学校は、１９７３年（昭和４８年）１月に現在の場所に移転し、学校の名称も、この移転の前後に現在の「ヨハネスブルグ日本人学校」へと変更されました。翌年にはテニスコート、その後も図書館、理科室など施設が拡張されていき、１９８４年（昭和５９年）５月、現在のレンガ造り２階建ての校舎が完成、その４年後には体育館が完成し、現在の設備がほぼ揃いました。

【Emmarentia 現校舎の建設】

当時の南アフリカ社会は、人種隔離政策のために世界各国から厳しい非難と経済制裁を受けていました。このことと国内での人種差別撤廃運動の盛り上がりを受け、１９９４年（平成６年）４月、南アフリカでは初となる全人種参加による制憲議会選挙が行われました。ここで、現在の南アフリカ紙幣の「顔」となっている、ネルソン・マンデラ氏が黒人初の南アフリカ大統領に就任し、長年にわたって続けられてきた人種隔離政策が終了するという、南アフリカにとってまさに激動の時代でもありました。このような時代、そして最近では全世界に大きな影響を及ぼしたコロナ禍のような数々の荒波の中、ヨハネスブルグ日本人学校は営々と日本の学校教育にあたってきたのです。

私達の毎日の学校生活は、このようなヨハネスブルグや南アフリカに在住する日本人をはじめとする多くの先達の「熱い思い」と「貢献」につながっているものです。そして今、このヨハネスブルグ日本人学校で学ぶ児童･生徒皆さんの活躍が、やがて新たな「歴史」としてその上に積み重ねられていきます。思いをつなぎ、力を結び合わせ、次の７０周年、１００周年へと歩んでいきましょう。